

平成25年度第4回小平市図書館協議会要録

- 1 日時 平成25年11月14日(木)午後2時～4時45分
- 2 会場 中央図書館会議室
- 3 出席者 図書館協議会委員：12人 傍聴者：なし
事務局：中央図書館長、館長補佐兼庶務係長、調査係長、サービス係長
資料係長、花小金井図書館長、小川西町図書館長、仲町図書館長、
津田図書館長

- 4 配付資料 資料は省略させていただきます。

5 議事等

(1) 報告事項

① 図書館運営状況について

- ・図書館行事等の報告と今後の予定について(資料No.1)

(これまでの報告)

- 9月28日 講演会「としょかんからはじまるコミュニティ」川端秀明氏
中央図書館 小平図書館友の会主催
- 10月6日 小平図書館友の会総会
- 10月9日・16日 児童文学紀行講座「絵本で旅するイタリア」中央図書館
- 10月19日 ブックリサイクル(一般書・児童書) 全館
- 10月24日 デイジー図書製作講習会
- 10月26日 児童文学講座「アリソン・アトリーの世界～人生と作品～」
中野節子氏 喜平図書館
- 11月12日 小平市子ども読書推進計画検討委員会
- 11月14日 「大人のためのおはなし会」津田図書館

(今後の予定)

- 11月24日 妹島和世氏講演会 中央図書館
- 11月26日 児童文学講演会&原画展「まじょの絵本ができるまで」さとうめぐみ氏
中央図書館
- 11月30日 講演会「こころに響く絵本の世界」三宮麻由子氏 中央図書館
子ども文庫連絡協議会主催
- 12月5日 おたのしみ会 花小金井図書館
- 12月11日 おたのしみ会 小川西町図書館、大沼図書館
おはなし会スペシャル 喜平図書館
- 12月12日 おたのしみ会 上宿図書館
- 12月17日 おたのしみ会 津田図書館
- 12月24日 おたのしみ会 中央図書館

1月 5日 第34回ふるさとの新聞元旦号展 中央図書館、上宿図書館、
大沼図書館

1月26日 冬の家族一日図書館員 全館

・対面朗読サービスについて

今まで中央、大沼図書館で実施している対面朗読サービスを他の地区館でも実施することにした。市報11月20日号に掲載する。

② 教育委員の就任について（資料No.2）

前伊藤文代委員長が退任され、10月1日付で後任に三町章氏が就任され、臨時の教育委員会において委員長に森井良子委員、職務代理に山田大輔委員が選任された。

③ 平成24年度決算特別委員会について

新しい仲町公民館・図書館について4人の委員から、レファレンスについて1人の委員から質問があった。

第1点目は、新しい仲町公民館・図書館について、小平市のシンボリックな役割も担っていくということだが、教育委員会としてはどう考えるか。また喫茶コーナーについて、どんな検討をしているかという質問に対しては、教育部だけでなく、他の部間との連携会議も設置し、役割については検討している。また喫茶コーナー部分については、26年度に工事を予定しているので現在検討中であると答弁している。

第2点目は、仲町図書館は長く休館しているが、市民から弊害等の意見はあるか、との質問に対しては、仲町公民館でリクエスト本の受取り、返却本の預り、読み聞かせの会の開催等を行っており、特に休館についての意見は出ていないと答弁した。

3点目は、新仲町図書館の蔵書についてICタグを付けた資料は最終的に何冊か、との質問で、7万冊の所蔵予定のうち、開架部分の3万冊程度にICタグを付ける予定であると答弁した。

4点目は、仲町公民館・図書館において地域の声をどう反映しているかとの質問に対しては、平成22年12月に3回、平成23年3月と25年2月に住民説明会を行なったと答弁した。

5点目は、レファレンスの利用者数が平成23年度を下回っている理由は、との質問には、平成24年度には喜平図書館と上宿図書館にも開放端末を入れたが、実績で利用者が減っているので、今後、増加に向けての広報等に努めていきたいと答弁した。

④ 平成24年度小平市の行政評価について（資料No.3）

個々の事務事業の評価と施策についての評価を毎年行っている。図書館事業は、概ねA、Bの評価をもらっているが、一部の事業にC評価があり、その部分について説明する。

図書資料の収集事業の効率性がCとなっているが、これは加除数1冊あたりの単価の増で、23年度は仲町図書館の除籍があったが、24年度はなくなったため、加除冊数が減少したことから、前年度に比べ単価が上がったと考えている。

花小金井図書館運営管理事業の効率性では開館1日当たりの単価がCとなっている。これは、

再任用職員が1人増加したため、人件費が増えたことでCになったと考えている。

郷土写真資料の収集・整理・保存事業では有効性がCになっている。これは50周年記念事業の郷土写真展の準備関係で、写真データの入力数が減ったことによると考えている。

上宿図書館運営管理事業では有効性で利用者数がCになっているが、図書館システムの更新による11日間の臨時休館が影響したと考えている。

また、レファレンス機能の充実事業の有効性では利用者数がCになっている。これはインターネット開放端末の利用状況が目標も、昨年度の実績に達しなかったためである。11日間の休館の影響はあるが、喜平、上宿図書館に各1台導入したのにもかかわらず減っていることから、今後利用増に向けてどう展開していくのかを考えていく必要がある。

最後に、東部市民センター駐車場・自転車駐車場管理事業の効率性がCになっている。これは活動1日当たりの単価が増えたためで、その理由としては契約金額が増えたにもかかわらず、年間活動日数が逆に減ったことで単価が増となった。

⑤ 国分寺市との相互利用の開始について（資料No.4）

議会の議決を経て、10月4日に協定書締結の調印式を行ない、11月1日から相互利用を開始した。11月1日から4日までの実績は、国分寺市から小平市の図書館に来た人の登録者は42人、貸出冊数は96冊。逆に小平市から国分寺市の図書館に行った人は、登録者99人、貸出冊数は224冊で、倍となっている。小平市の登録者42人の内訳は中央図書館28人、喜平図書館6人、津田図書館5人、小川西町図書2人、上宿図書館1人で、駐車場があり蔵書の多い中央図書館の利用者が多く、次に近い場所にある津田、喜平図書館が利用されている。さらに11月1日までの小平市立図書館で受付けた新規の登録者は62人、利用者は86人、貸出冊数は204冊となっている。

⑥ 第2次小平市子ども読書活動推進計画の進捗状況について（資料No.5）

庁内の関係課で構成された子ども読書活動推進計画検討委員会において、平成24年度の進捗状況を資料のとおりまとめた。具体的には家庭における読書活動の推進、学校における読書活動の推進、図書館における読書活動の推進、地域における読書活動の推進、地域に力を生かした読書活動の推進、読書推進体制の整備、啓発・広報について項目ごとにまとめた。

なお、今年度の実態調査のためのアンケート調査を行い、来年度、第3次の計画策定を予定している。その際は図書館協議会を中心に色々な意見をいただく。また現在、第3次の策定基本方針を検討しており、次回の図書館協議会で報告する予定でいる。

⑦ 仲町公民館・仲町図書館の愛称募集について（資料No.6）

平成26年度後半にリニューアルオープンする仲町公民館・仲町図書館の愛称を今年度中に決定し、建物のサイン等に用いてPRに活用したいと考えている。チラシの裏面が募集要項になっており、募集期間は、平成25年11月18日（月）から12月27日（日）までとし、愛称選考委員会を設置して決定する。また、愛称募集に合わせて、建物を設計した妹島和世氏による「環境と建築」をテーマとした講演会を11月25日（日）午後2時より中央図書館3

階の視聴覚室で予定している。

⑧ 仲町公民館・仲町図書館改築工事の進捗状況について

現時点での建物の概要は、建築面積 365.19㎡、延べ床面積1,454.78㎡、地上3階、地下1階。高さ10.58m。構造は地上が鉄骨造、地下が鉄筋コンクリート造となる。引き渡し後、建物の検査を受け、備品、所蔵本等の受け入れを完了し、平成26年度中の開館を目指し、準備を進めている。設計は、妹島和世建築設計事務所が担当している。

現在、地下1階の床部分に生コンを流し込んでいる。地下部分の鉄筋コンクリート部分については、12月末までに出来上がる予定である。年が明けると1階部分に移る。工事の様子を小平市ホームページのトピックスに、おおむね月に1回更新しながらアップしている。

【平面図及びイメージ図を元に説明】

1階部分について説明する。公民館の利用者は、正面の玄関から入り、エントランスホールにある受付で、利用する部屋の鍵等を受取る。部屋の予約もこちらのカウンターで行う。1階には、正面入口横に、図書の返却ポスト、夜間の貸出ロッカーがある。開館後は、1階のカウンターでも本の返却ができる。また館の総合窓口として案内も行う。エントランスホールには、パソコンとつないだモニターに電子媒体の絵や写真、文字等をつないでご案内するデジタルサイネージを設置する他、正面入口と北側入口には、本の無断持ち出しを防ぐためのICゲートを設置する。その他、陶芸や木工、調理をする多目的室がある。また、カフェラウンジを設置し、喫茶コーナーを設けるとともに、ラウンジ前には小平の観光と産業の広報コーナーを計画している。ここには、吹き抜けの中を階段が3階まで続いており、3階で借りた本を階段で1階のラウンジまで降り、本を読むこともできる。車の駐車スペースについては、9台分確保している。このほかに隣接地に5台分の借用を考えている。また、自転車駐車場は3か所合わせて45台を確保している。建物の外壁には、日射負荷の低減と隣地への配慮として、エキスパンドメラルスクリーンを設置する予定である。

2階部分は、講座などを行なう多目的室、授乳コーナー、児童書を中心とする図書館部分がある。多目的室は、公民館のパソコン講座のほか原画展や展示にも使えるように、天井からピクチャーレールを設置しているが、公民館の利用がないときは、読書室として利用する。南側に突き出た部分は、図書館のティーンズコーナーを予定しており、床が他より28cm低く、なだらかなスロープでつながっている。2階の書架は、木製の低書架を配置し、カウンターから全体を見渡せるよう考えている。ここには、OPAC（自動検索機）1台、自動貸出機1台、開放端末用パソコン1台、児童向けの商用データベースを1台配置する。また、カウンターの後ろの部分のブースには、調べものをするための椅子や机を配備する。その先は、幼児コーナーで、絨毯を敷き詰め、靴を脱いで利用する。絨毯部分の書架は移動可能で、ここで読み聞かせ等もできるように工夫している。2階部分からラウンジには降りて行けないが、非常時の場合は仕切りを解除して避難、誘導できる階段となっている。

3階部分は、一般書を中心とした図書館スペースとなる。蔵書数は、2階、3階合わせて約3万冊となる。3階のカウンターでリクエスト本を渡す。OPAC2台、自動貸出機2台、開放端末用パソコン1台、商用データベース1台を設置する。また、カウンター式の机と椅子

があり、調べものや読書したりするコーナーになっている。テラスもあり、晴れた日には外で読書を楽しむことができる。雑誌は1階部分に一般的な婦人雑誌やスポーツ雑誌、趣味のもの、週刊誌を置くが、そのほかの雑誌については、3階に置く。本の返却等については、1階、2階、3階それぞれのカウンターに返却箱があり、どこの階でも本が返せる。基本的に書架は、免震のスチール製を予定している。

地下1階は、公民館エリアとして、ホール、多目的室、和室、会議や活動ができる学習室があり、図書館と公民館の共用の部分として、おはなし室兼保育室がある。事務室は、主に図書館の職員の事務室になる。事務室の隣に約4万冊を収容できる閉架書庫がある。他に、公民館サークル用のロッカー室、印刷室、利用者のための更衣室も準備している。また地下1階の事務室と1階の事務室は、らせん階段でつながっている。ホールの横には避難階段があり、施錠を解除すると、ここから裏庭に避難できる。

<報告事項についての質疑・応答>

委員：行政評価で、レファレンス用の端末の利用状況に関して、評価がCでなかなか数が増えていかないとのことだが、広報をがんばっても数的に実績という形で出していくと、目標値は難しいと思う。何かそれ以外のところで、もう少し質的に端末は使われていると評価ができないと厳しい内容と思うが。

事務局：図書館ならではの機能等、質的な付加価値をつけていかないと伸びないと感じている。

委員：行政評価は数と量の評価しかできない。質の評価はほとんどできない。たとえば、蔵書数はわかるが、蔵書の質は分からず、評価のしようがない。質の違いは、目で見てわかる基準がない。

事務局：全庁的に同じ方法で評価をしている。レファレンスも単なる所蔵を聞かれるものと、丁寧に色々な資料を紹介しても同じ1件という側面があるが、この評価が事業を発展させる一つの要因になるよう、評価するものの基準なりを考えながら作り上げている。

委員：図書館にある端末のメリットは、商用データベースだと思っているが、こちらだけに限った利用者数は。

事務局：商用データベースは、現在、年間100件程度の利用がある。費用対効果として低いという認識を持ち、課題と捉えている。さまざまな媒体、さまざまなものを対象にして、広報に努めなければいけない。

委員：レファレンスのパソコンに関連してだが、利用は30分単位だが、30分はあっという間で、その都度届出ることが面倒になる。また、もう少しパソコンの周りの机を広くしてほしい。

事務局：利用の方法についても考えていかなければならないと認識している。

委員：施策レベルの視点でとらえた評価は、どのようにみればよいのか。Cが付いている事業において、こちらで最高点の3点がついているものがある。

事務局：評価点の判定基準が0～3点までである。施策レベルの視点でとらえた評価点は、情報拠点機能と資料・情報の提供、利用環境の整備の3つに分かれ、それがさらに2つに分かれているが、それらについて事業の成果が上がっていれば3点を入れ、該当しないものは空欄

になっている。これと事業レベルの評価とは、基準等の見方が違った形になっている。

委員：レファレンス事業では、施策レベルで3点が3つ付いているが、評価してもらえないのか。

事務局：資料・情報の充実に3点がついているが、これは図書館側から見て、商用データベースという情報を入れて、充実を図っているので3点になっている。事業評価でCになったのは、図書館側からは、情報は充実させているが、実際の利用状況がそこまで至っていないというところがあってCになった。

委員：事業レベルについては、第三者が評価していると思うが、施策レベルの方は、自己評価的なものなのか。そこを区別して説明してくれると意味が分かる。

事務局：事業レベルは、あくまでも数値的で実績により自動的にABCと振り分けられる。施策レベルは、図書館サイドでどの程度効果があったかを数値で付けたものである。

会長：これに対する回答は、どこかの時点でしていかなければいけないのか。

事務局：Cとつけられたものは翌年度、ランクを上げていくような努力が求められる。

会長：翌年の政策、運用の中で解決していけばいいのか。何月何日までにCと評価されたものに対する対応策を回答しなければいけないのか。

事務局：特に回答はないが、翌年も同じように評価をするので、その1年間で改善、見直しを図る必要がある。2年連続してCがつくと、財政当局から聞き取りやヒアリングがあり、予算に影響が出てくる。

委員：Cがしばらく何年か続くと、この事業の存立そのものにかかわってくるので、何らかの形で対応しないと、事業そのものを廃止と言われかねない。

委員：図書館のレファレンス事業における情報について、設備は整っているが利用者をどう増やすのか、ということは大きなテーマのように思える。

事務局：このインターネット開放端末については、今後図書館として、どういう存在価値が見いだせるか考えていかなければならない。

会長：うまく利用してもらうためには、どんな資料をデジタル資料として持っていて、それを使うにはどうしたらいいのかという広報と利用環境の整備をお願いしたい。利用時間が30分は短い。せめて1時間は座って調べたいと思う。また、端末と資料を使って調べ物をする上では、机の広さも考えていただきたい。

委員：評価するなら、図書館の根幹である、理念や資料など、そういうところの評価から入っていかないといけない。末端の所だけ評価されても図書館としては困る。

委員：学校図書館協力員が全校に配置され、ハード的にはかなり充実してきていると思うが、子どもたちの利用状況は改善されているのか。

事務局：全校に配置され3年が経ち、また学校図書館資料のデータベース化もでき、環境的には整備された。今後は、今の土台にどういう形で学校支援をしていくかという、新たな課題に向けて進めていく。

委員：学校図書館協力員を増やしていったことは、数字が増えているので評価的には分かる。ところが、いかに読書離れを防いでいくのか、子どもたちの図書の利用をいかに増やしていくのかということにつながっていかなければいけない。その評価が出てこないが、その辺は実際にきちんと見極めていくことが必要である。

- 委員：学校図書館協力員がいて、図書室は新しい本の紹介など、環境面は良くなった。ただ、子どもたちが図書室へ行っているかという、その辺りはまだ分からない。小平市の小・中連携の中で「読書マラソン」の成果を見るために、小学校六年生と中学校一年生に「読書の習慣がついてきましたか」というアンケートを取ることにしている。その結果の数字が出てこないと言えない。
- 会長：小平市の学校の図書室も以前は閉室になっていることが多かったが、学校図書館協力員やボランティアが来るようになり、市との連携も図られ、閉室している状況を減らしている。司書教諭を全学校に配置するまでにはまだ至っていないようだが、それについても考えてくれているようである。また、学校図書館のデータベースも、図書館の持っている同じデータベースで見られるよう連携が図られている。そういうことでは、他の図書館よりはモデルとしての役割は果たしている。あとは啓発活動をすることが、大きい仕事になってきている。
- 委員：10月、11月で、小学校の図書の授業を見学させてもらった。学校図書館協力員がいるおかげで、明るくいい環境になっている。図書室には司書がいることを望んできた第一歩は叶ったと思っているが、1日5.5時間、週3日、年間何時間と決まっていて、8月は休み月という不安定な立場である。その辺りがもう一つ改善できるとよい。
- 委員：2～3年前、小学校に行って実際に見たが、学校図書館協力員が入ってから、明らかに貸出冊数や子どもたちの利用が多くなり、効果が出てきていると思った。ただ学校図書館協力員は2年間で交代させられるのか。
- 事務局：長期ではなく、3年で一区切りということになるが、再度応募し、2回目、3回目とやることは可能となっている。
- 委員：仲町の改築工事について、いくつかの新しい図書館を見学すると、具体的に問題となるのは、階段の問題である。カフェラウンジのところから登れる階段は、横や下の方から覗き込まれるような問題はないのか。また、児童スペースのところでは絨毯敷きの話があった。素足で歩けるメリットがあるのは確かだが、日本の高温多湿の環境の中で、カビ、ダニ、ハウスダスト等の対策、また掃除等のメンテナンス性のメリット、デメリットを考えたいうえで決めてほしい。
- 事務局：デザイン的なものと日常的なものとの衝突は避けられない問題。その他テラスの柵の高さといった安全性の問題もあり、いろいろな事例を参考にしながら考えていく。その他お気づきの点があれば、言ってもらいたい。
- 委員：ラウンジを使うためには、1階から入らず、2階か3階から階段でいくのか。
- 事務局：ラウンジへは、1階に別の入口がある。
- 会長：そこにも盗難防止ゲートがあるのか。
- 事務局：3階のラウンジに降りる階段に1つ、エントランスホールに2つある。つまりは、借りた本はラウンジへ持っていけるということになる。
- 会長：地下のオフィスから1階に繋がるらせん階段は、使いやすいのか。直接市民の目に触れる部分ではないので、スペースがとれるなら、直線の方がいい。機能を優先しないと事務は大変になる。業務用のコンテナだけでもエレベーターで上げた方がよいなど、今、話して

おいた方がよいので、図書館の中で、十分検討を願います。

委員：地下の閉架書庫から3階への本の出し入れについて、エレベーターがないように思えるがどのようにするのか。

事務局：共有のエレベーターを使用し、人が持って上がることになる。

委員：地下の事務室は、図書館が主に使うという説明だったが、公民館の事務室は。

事務局：1階の受付が公民館の事務室になる。公民館の受付に関する鍵の受け渡し、部屋の予約、備品の貸出しという作業は、1階のカウンターで行なう。

委員：アトピーやシックハウス症候群の人が、この頃多くなってきた。絨毯だけでなく、塗料や材料も気にしておいた方がよい。

委員：図書館司書は、カウンセラーとしての要素もこれから大切になってくる。図書館司書としての立場の人を入れていくことを考えた方がよい。図書だけでなく、人と人との関係を生かす場所にもなってくる。それも考えて採用を考えてほしい。

委員：自動貸出機は、子どもがいたずらをする心配がある。また、カウンターから離れたところに配置予定のようだが、使い方が分からないときには、人が近くにいた方がよいと思う。

事務局：平面図でみると、中央部分が広く見えるが、結構狭く、低書架になっているので、見通しも良くカウンターの職員にも見える位置になる。また、初めは使い方が分からないため、機械の横に職員が付き説明する。自分の借りている本を職員に見せたくない人もいるので、そういう人たちには、利用勝手がよく、ひとつのプライバシー保護の意味もある。さらに、10冊一度に貸出しができるので、スピーディーに対応できる。

委員：今後、自動貸出機を全館に入れるという可能性はあるのか。

事務局：全館できればよいが、そのためにはICタグを付けなくてはならない。小平市の場合、蔵書数の多さが逆にネックになっている。

委員：リクエストの本はカウンターで受け取るのか。

事務局：リクエストの本については、従来通りになる。全館でICタグを付けるということになれば、リクエスト棚を設けて、自分で受け取れるが、他の館から来た本には、ICタグがついてないので、それができない。

委員：他市で聞いたが、リクエスト本をカウンターにもらいに行くことになると、自動貸出機の利用率はとても低くなり、自分で貸出しをやらないと聞いている。

事務局：その話も聞いている。ただ、全館の本にICタグを付けないと、予約棚の設置自体が効率的でない現状がある。

(2) 協議事項

なし。